東海

No.3019

12. 9. 13

国土交通労働組合
東海建設支部
教育宣伝部

一年間の総括を踏まえ 更なる飛躍を

第55回 定期大会開催

八月二五・二六日に名古屋市中区の「愛知県青年会館」で第五五回定期大会を代議員、役員、来賓あわせ七一名の参加で開催しました。

大会は、各職場での課題等への発言や今後の運動方針に対する積極的な意見も多く出され、各地域における運動強化のための組織方針体制をはじめ提案された議案はすべて採択、承認、補強がされました。

本大会は、昨年度に結成された省内統一組織の国土交通労働組合が結成されてから一年が経過し、また、南海トラフ沖地震発生の懸念等により我々の運動に対する国民の期待が高まっている中での開催となる背景を踏まえ、二〇一二年度の運動強化の決意を固める大会となりました。

大会議長には、多治見分会の西さんと本局分会の舟橋さんが選出されました。

議長を務めた西さんと舟橋さん

委員長の挨拶に続き、本部から松本中央副委員長による全体情勢の報告がされ、来賓からは、杉本中部地方協議会議長からの激励や今後の運動の展望について、続いて管理職ユニオン中部の海野書記長から、高齢層における賃金引き下げ・退職金にかけられた攻撃に対する影響や再任用に係る問題等の報告がされ、協力しながらたたかいたいとの挨拶を受けました。

「地方を守る会」中部地方で約三割の議員が加盟

一号議案に対する質疑では、「地域主権改革」に対する意見について、現在「地方を守る会」に加盟している首長の内、中部地方の首長が約三割を占めている状況報告がされ、我々の運動への確信と展望を確認・一致することが出来ました。

外に出る運動が重要 「生公連」運動も強化しよう

また、職場の問題では、「賃下げ特例法への強い不満」「再任用職員の仕事のあり方や賃金の問題」「人事評価制度に係る当局の対応への問題や、パワハラ発展への懸念」「オーナー車の自操運転」等の様々な職場での問題の報告がされ、今後、再任用職員にかけられた問題については新たな政策を取りまとめていく方針が補強されました。

また、防災対応への期待が高まっている観点を踏まえ、要員の確保が急務であることについてあらためて認識の一致と同時に、これらの賃金・要員等の様々な課題に対し、地方議会や首長への要請行動、地域宣伝行動等を発展させることや憲法違反の「賃下げ特例法」の撤回を求める裁判闘争への結集が必要であり、外に打って出る運動”、地域の信頼が得られるような運動”がますます重要な局面となっている点を再確認しました。また、我々の要求に広く理解を得ていくためにも、生公連活動の強化を通じて地域に働く労働者と一緒になって運動を展開していくことが、いま正に求められていることも確認が出来ました。

2012も団結してガンバロー！

地方議会請願に取り組もう

「全厚生闘争団を支える会」に入会し 共闘しよう

全厚生闘争団から 支援の訴え

社保庁解体に伴い五二五名の職員が分限免職されています。分限免職が不当だとして七八名の仲間が人事院の公平審理を求めていますが、当時の厚生労働大臣などの新たな証人を申請し、不当解雇撤回に向け懸命に闘っています。

生活に困窮している組合員もおり、支える会に入会してもらい、生活を支えてもらいたい。

支部体制を見直し 各県協体制を強化

二号議案に対する質疑については、支部体制について厳しい財政状況を踏まえた支部書記長の非専従体制の提案への意見が多く出され、各分会から「運動の牽引役は重要」「喫緊の財政状況より長期的視野での支部体制の確立を」等の意見が出されました。本件については、予決算委員会に送られ今後活動拠出金の活用等の新たな提案も含めて検討し、次回支部委員会において具体的な提案を行うこととなりました。

一方、現在の攻撃を跳ね返すたたかいには各県協単位を中心とする奮闘が重要であり、各県協の体制の強化が求められていることも確認され、今後の運動の発展に向け今後も議論を重ねていく必要があります。

職場を牽引する組織へ 職場での対話が重要

一号議案でも討論されましたが、現在の職場状況は大変厳しいものとなっています。

特にメンタル問題やパワハラ問題については、各分会から「職場で一人になるような状況があってはいけない」「声を掛け合うことが重要」である点の報告がされました。

また、組織活動の面においては「多忙を極める職場環境において運動の組織化が難しくなっている」「ある個人だけが頑張っている状況もあるのではないか」などの課題も出されました。

運動は実を結びつつある 粘り強く取り組もう

我々にかけられた攻撃は国民的課題へ移行しており、運動の到達点が見えにくくなっていることは事実かもしれません。

しかし、これまで取り組んできた運動は実を結びつつあります。桑名分会からは、「民間の運動にもつと出てきて欲しいとの声をもらった」、愛知生公連からは「民間労組から地域宣伝行動への共闘要請を受けた」等の報告があり、最後に静岡分会から「十一月四日に静岡生公連結成総会を開催する手探りではあるが頑張っていく」と力強い報告がされました。地域が我々を信頼し連帯を求める状況が確実に生まれています。

議案 満場一致で可決 新役員共に

各議案は、各分会からの多くの報告や意見で補強がされ、すべて満場一致で可決されました。

また、新役員の信任投票も行われ、新体制が決定しました。

決して明るい情勢ではありませんが、粘り強く最後まで闘う決意を込め、参加者全員の大きな「団結ガンバロー」で閉会をしました。

大会宣言

私たち国土交通労働組合東海建設支部は、二〇一二年八月二五・二六日に名古屋市中区「愛知青年会館」において第五五回定期大会を代議員、役員、特別者等七一名で開催した。

六つの労働組合が「大同団結」し、国土交通労働組合として新たな一歩を踏み出してから一年、国土交通労働組合の真髄とめざすべき方向として、規約の前文に掲げた四つの視点で「たたかい」を強めてきた。

二つには、自らが労働者として生活改善と地位向上のための闘争をめざすこと。

三つには、公務に働く者として格差・貧困の是正など国民生活を守る国土交通行政の実現をめざすこと。

四つには、私たちの仲間を増し、広範な労働者と連帯すること。

国民の一人として、憲法と平和を守ること。である。

とりわけ、未曾有の被害をもたらした「三・一一東日本大震災」や「台風一二号」による大規模土砂災害などへの復旧・復興対策をこめぐって、あらためて国土交通行政の重要性が浮かび上がってきている。また、「国民生活を守るとは何か」を絶えず問い続けてきた。国民本位の民主的行政を絶えず追求する「国民生活を守る会」と共に、国土交通行政の重要性や必要性をしっかり訴えるという労働組合の社会的役割を果たしていくことが求められている。

一方、各職場では、「定員合理化計画」や「新規採用抑制」などによって、決定的な要員不足となり、過酷な労働を強いられており、職場・職員に過重な労働を強い、業務執行にも、職員の健康管理にも悪影響を及ぼしている。また、職員が増えている。また、家庭生活と両立できずに職場を去る職員がいる。また、職員の「異変」になかなか気づけないまでに、追い込まれている状況となっている。

民自公政権は、「議員提出法案による「給与特例法」は強行採決・成立させるなど、憲法違反の賃下げを強行し、職員の「人間らしい生活」を破壊し、「公務員バッシング」は断じて許すことは出来ない。こうした、地域・職場で展開することが重要である。

職場の外に目を転じてみれば、消費税増税、TPP参加、原発再稼働等々、国民生活を脅かし、この国のあり方・いかに大きく歪められようとしている事態になっている。その多くは公務員バッシングを「利用」しているかの様な国民感情である。国民の中にも、「公務員は公務員だけで生活している」などの仲間と共にたたかいは、職場内でも、国本位な労働者の連帯を広げていくことが強く求められている。

いま「国家の在り方」が問われているもとで、政府の機関に多くの国民が立ちはがっている。毎週金曜日の反原発集会、労働組合の枠を超えた運動全国に拡がっている。その国民の怒りの物徴は、「これまでの労働組合等の枠を超えた運動全国に拡がっている。その国民の怒りの物徴は、「これまでの労働組合の枠を超えた運動全国に拡がっている。その国民の怒りを共有する人々ともども、さらにその輪を広げていくことは、新しい運動の始動である。

私たちは国土交通労働組合東海建設支部は、各地に出先機関を持ち連携している国土交通省の特徴をフルに活かして、公務員の大きな「団結ガンバロー」で閉会を尽くし重要視することをここに宣言する。

二〇一二年八月二六日

国土交通労働組合東海建設支部第五五回定期大会

2012年度 東海建設支部 役員名簿

役職	氏名	分会名
執行委員長	芝田 秀幸	庄内川分会
執行副委員長	笠井 良彦	岐阜分会
〃	高木 晃人	本局分会
〃	堀川 勝利	桑名分会
〃	水谷 嘉臣	名国分会
〃	山田 貴徳	本局分会
書記長	青山 浩	名国分会
書記次長	林 昌弘	本局分会
執行委員	阿部 昌彦	浜松分会
〃	稲葉 亮	岐阜国分会
〃	佐藤 靖	天竜川分会
〃	辻 重美	三重分会
〃	山田 光希	中技分会
〃	中田 猛	三重分会
〃（ブロック国公）	伊藤 圭二	丸山分会
〃（青年部）	節田 真理子	桑名分会
〃（女性）	落合 綱三	沼津分会
会計監査	藤澤 彰	北勢分会